

休日も寝かせてくれぬ吾の気性

竹本 タエ子

鏡みてポツコリお腹愕然だ

磯部 佳子

野良仕事三鍬打っては一休み

今川 昇

七年後名月逢えるか感無量

坪郷 英美子

三度ほど戻ってやっと家を出る

藤井 節子

きゆうじつもねかせてくれぬあのきしよう

たけもと たえこ

かがみみてぽっこりおなかがくぜんだ

いそべ よしこ

のらしごとみくわうってはひとやすみ

いまがわ のぼる

しちねんごめいげつあえるかかんむりよう

つぼごう えみこ

さんどほどもどってやっといえをでる

ふじい せつこ

萩咲くや島に空家の又ひとつ

田中 孝利

度忘れの一字躓く秋の夜

三戸 志津江

一斉に振り向く児達や鯉跳ねる

金内 憲一

虫の音を独り占めする厨窓

春吉 智子

秋灯や無沙汰重ねし柵の辞書

馬場 精作

はぎさくやしまにあきやのまたひとつ

たなか たかとし

どわすれのいちじつまずくあきによる

みと しづえ

いっせいにふりむくこらやぼらはねる

かねうち けんいち

むしのねをひとりじめするくりやまど

はるよし ともし

しゅうとうやぶさたかさねしたなのじしよ

ばば せいさく

楽しかった君との記憶の登山靴  
断捨離やめて下駄箱にもどす

江川 詳子

留守の間を夫に守られ背伸びして  
空に眩しきひまわりの花

河野 美津子

下戸なれど夫がビールを飲む度に  
一緒にうまいと言ってはみたい

賤間 星

夜なべする栗の皮むき指痛し  
栗飯亡夫に今年の初物

川本 禮子

秋空にピピッと笛の音響かせて  
運動会の練習始まる

山口 正子

たのしかったきみとのきおくのとざんぐつ  
だんしゃりやめてげたばこにもどす

えがわ しょうこ

るすのまをつまにまもられせのびして  
そらにまぶしきひまわりのはな

かわの みつこ

げこなれどつまがびーるをのむたびに  
いっしょにうまいと言ってはみたい

ざいま ほし

よなべするくりのかわむきゆびいたし  
くりめしつまにことしのはつもの

かわもと れいこ

あきぞらにびびつとふえのねひびかせて  
うんどうかいのれんしゅうはじまる

やまぐち まさこ

言えなかった胸ポケットにある言葉

佐川 智英実

白寿を目標まゆをきりりと描いていく

西岡 悦子

満席の中の一粒になって聴く

池田 幸

ほほにふわり金木犀深呼吸二回

田中 秀子

LINEで結んだ空白の五十年

松下 満江

いえなかったむねぽけつとにあることは

さがわ ちえみ

はくじゆをもくひようまゆをきりりとえがいていく

にしおか えつこ

まんせきのなかのひとつぶになってきく

いけだ みゆき

ほほにふわりきんもくせいしんこきゆうにかい

たなか ひでこ

らいんでむすんだくうはくのごじゅうねん

まつした みつえ